

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101935	
法人名	社会福祉法人 やまなし勤労者福祉会	
事業所名	グループホームわがや	
所在地	甲府市若松町6-35	
自己評価作成日	令和3年1月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①介護の基本理念とし「見守り」「待つ介護」「恥をかかせない」「鍵をかけない」など意思を尊重した支援をしている。②重度化する中でも一人ひとりが力を発揮できるような場面を作り生きる力を支える支援をしている。その為に、職場会議で入居者さんの現状を把握し検討している。③地域の商店を利用したり、地域の行事に参加したり施設の行事にお誘いし交流している。④施設全体で事例検討会を行い日々のケアの振り返りを作っている。介護の質を高める為に、内外部の研修に積極的に参加している。⑤学生実習や地域ボランティアを積極的に受け入れている。⑥食事は入居者さんの希望を取り入れたり入居者さんの力を引き出しながら、一緒に片付けも行い、時々外食にも出かけている。⑦職員は日常生活の中で気が付いたことを報告し、共有、分析し危険予測の向上と介護の質を高める努力をしている。⑧ご家族と話し合いながら、最期までその人らしく過せる支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

甲府市市街地の南に位置し、周辺には公園、動物園、神社、郵便局、病院、老舗の商店等があり、自然にも恵まれた環境にある。遊亀通りに面した鉄筋コンクリート6階建ての3階が2ユニットの事業所になっている。事業所と接している三か所の自治会に加入し、地域との繋がりを大切にしている。コロナ禍の中で利用者との交流の機会が少なくなっているが、基準を設けて介護実習生の受け入や事業所に隣接している麺を扱う商店での味噌づくりに参加(少人数)し、出来る事の支援をしている。職員は、日頃から利用者の出来ないことを探すのではなく、出来る事一つでも多く探すことを心がけ、その人らしく自由に生活できるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <b>現状は(参考項目:2,20)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <b>現状は(参考項目:49)</b>	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名)	ユニット名(① 6名)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんが地域の中で元気にいつまでも暮らせるように、買い物、地域行事、ご近所付き合いを行い、安心して暮らせるようにする。また入居者さん個人個人の思いに添う介護を提供し、その人らしく暮らせるように支援する。	入居者さんが地域の中で元気にいつまでも暮らせるように、買い物、地域行事、ご近所付き合いを行い、安心して暮らせるようにする。また入居者さん個人個人の思いに添う介護を提供し、その人らしく暮らせるように支援する。	基本理念「見守り」「待つ介護」「恥をかかせない」「鍵をかけない」と事業所の年間目標を事務所に掲示してあり、日々の関わりの中で職員に意識づけがされている。職場会議等でも話し合いの機会をもち、利用者一人ひとりの思いに添う支援に繋げるよう管理者と職員は共有して実践に努めている。また、職員の個人目標もあり、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	3つの自治会に加入し地域の防災訓練やお祭り、清掃作業に参加している。回覧板、施設独自の新聞を配布し地域と交流している。また、施設の空きスペースを地域のサークル活動等に解放し、利用者と一緒に参加し交流している。	3つの自治会に加入し地域の防災訓練やお祭り、清掃作業に参加している。回覧板、施設独自の新聞を配布し地域と交流している。また、施設の空きスペースを地域のサークル活動等に解放し、利用者と一緒に参加し交流している。	事業所と接している三か所(緑盛会、北地区、南地区)の自治会に加入して、地域の行事や職員が清掃作業に参加している。回覧板や事業所で発行するお便りを職員と一緒に隣近所に届けて地域とのつながりを作っている。空いている部屋を地域のサークル活動や会議の場としても開放している。介護実習生やボランティアの受け入れも行い利用者で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の組織の会合で認知症理解のための講師をしたり、地域交流時に理解を得られるように買い物時等で話をしたり、地域で認知症介護でお困りの方の相談、対応方法など施設体験もやっている。	地域の組織の会合で認知症理解のための講師をしたり、地域交流時に理解を得られるように買い物時等で話をしたり、地域で認知症介護でお困りの方の相談、対応方法など施設体験もやっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(奇数月)に開催し入居者さんへのサービス提供の状況を、写真なども交え報告している。またインシデントを報告し、意見や要望が言いやすい環境を作り、参加者に助言やアドバイスを頂き実践に取り入れている。同センター内の地域密着型と共同し、認知症について学習する場を設けた。	2ヶ月に1回(奇数月)に開催し入居者さんへのサービス提供の状況を、写真なども交え報告している。またインシデントを報告し、意見や要望が言いやすい環境を作り、参加者に助言やアドバイスを頂き実践に取り入れている。同センター内の地域密着型と共同し、認知症について学習する場を設けた。	2か月に1回開催していた、運営推進会議がコロナ禍の影響で中止となり、書面開催としている。返信用封筒を同封して書面で意見をもらうようにしている。寄せられた意見、要望はまとめて議事録として作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターより参加して頂いている。市役所には議事録を送付し報告をしている。包括の職員と共同し認知症について学ぶ機会を持ち、誰もが安心して住めるまちづくりについて学んだ。市の主催のグループワークに参加し意見交換を行っている。	運営推進会議に包括支援センターより参加して頂いている。市役所には議事録を送付し報告をしている。包括の職員と共同し認知症について学ぶ機会を持ち、誰もが安心して住めるまちづくりについて学んだ。市の主催のグループワークに参加し意見交換を行っている。	運営推進会議の議事録を市の担当者に送付して、事業所の実情を伝えている。市主催のグループワークに参加して、地域の医療・福祉関係者とのつながりを築いている。介護相談員の受け入れや、生活支援を受けている利用者の様子や面会に担当者の訪問があったがコロナ禍で中断している。困難事例に対応できるように、担当者とは協力関係を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉1つも拘束であることを学習会を通じ、職員全員が理解し拘束を行わない介護を実践している。また職員間でお互いのケアについて日常的に意見し合っている。年に一度は教育の一環として身体拘束の疑似体験研修を行っている。	言葉1つも拘束であることを学習会を通じ、職員全員が理解し拘束を行わない介護を実践している。また職員間でお互いのケアについて日常的に意見し合っている。年に一度は教育の一環として身体拘束の疑似体験研修を行っている。	職場会議で身体拘束に関する学習会があり、内容とその弊害を理解し職員も共有認識を図っている。また、職員も疑似体験研修として利用者と同じ場面を想定して実施している。利用者の行動を制限してしまうような言葉かけについても、職員間で注意し合える関係作りがされている。外に出る気配を感じたときは、利用者と一緒にいていき自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な学習会を行うことと、お互いのケアについて職場会議などで意見交換し、気付きを持つようケアの質の向上に努めている。	定期的な学習会を行うことと、お互いのケアについて職場会議などで意見交換し、気付きを持つようケアの質の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修を通して学ぶ機会をつくり、施設内学習会で職員間で共有し、家族から相談が合った場合は対応できるようにしている。	施設外研修を通して学ぶ機会をつくり、施設内学習会で職員間で共有し、家族から相談が合った場合は対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項、利用契約、運営規定、看取りの指針、利用料金等の説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約に至っている。疑問に思うことがあれば、その都度説明し、加算等で変更がある時は運営推進会議や文章にし説明をしている。	契約時に重要事項、利用契約、運営規定、看取りの指針、利用料金等の説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約に至っている。疑問に思うことがあれば、その都度説明し、加算等で変更がある時は運営推進会議や文章にし説明をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名)	ユニット名(① 6名)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時や運営推進会議などで、ご家族や地域の方々より意見や要望を気軽に話す機会を設けている。入居者からは、日々かかわる中で気軽に話せるような雰囲気を作り支援に繋げている。意見・要望が表出できない利用者については、日々の表情・言動でくみ取るようにしている。	日々の面会時や運営推進会議などで、ご家族や地域の方々より意見や要望を気軽に話す機会を設けている。入居者からは、日々かかわる中で気軽に話せるような雰囲気を作り支援に繋げている。意見・要望が表出できない利用者については、日々の表情・言動でくみ取るようにしている。	運営推進会議や面会時に家族等から意見、要望を聞く機会を作っている。コロナ禍でも、面会制限はなく密を避け、感染対策をして少人数で、居室での対応をしている。利用者も高齢になり、家では困難とのことで家族等からは事業所での対応に感謝の言葉が多く、運営に反映させるような意見、要望は出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時にスタッフ会議を設け、月2回の職場会議で意見交換を行っている。日常の中でも要望や意見はその都度聞き、支援や運営に生かしている。管理者は定期的に面談し意見を引き出す機会を作っている。	必要時にスタッフ会議を設け、月2回の職場会議で意見交換を行っている。日常の中でも要望や意見はその都度聞き、支援や運営に生かしている。管理者は定期的に面談し意見を引き出す機会を作っている。	職場会議や日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、その都度聞いている。職員との個人面談も年2回実施し、個人目標達成や意見、要望を聞いている。職員の異動希望等、管理者は法人代表に面談時に伝えている。備品についても、職員からの要望を聞いて購入し、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	教育、研修制度が確立しているため、段階ごとや年齢層にあわせた就労環境を作り、働きやすい職場を作っている。職場での意見交換も積極的にし情報を共有している。給与など労働条件は組合を通じ要望している。	教育、研修制度が確立しているため、段階ごとや年齢層にあわせた就労環境を作り、働きやすい職場を作っている。職場での意見交換も積極的にし情報を共有している。給与など労働条件は組合を通じ要望している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が主体となり階層ごとの研修会、事例検討会やテーマ別の研修会を開催し実施している。キャリアアップ助成金を得て有期実習型訓練を実施した。形成事業や認知症研修など様々な研修に参加している。	研修委員会が主体となり階層ごとの研修会、事例検討会やテーマ別の研修会を開催し実施している。キャリアアップ助成金を得て有期実習型訓練を実施した。形成事業や認知症研修など様々な研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入し、研修を通じ他事業所の見学など参加している。他事業所の運営推進会議にも参加し、情報交換をしながらサービスの向上に努めている。	GH協会に加入し、研修を通じ他事業所の見学など参加している。他事業所の運営推進会議にも参加し、情報交換をしながらサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂けるように、利用者さんからお話を伺い、入居に至るまでの生活を面談記録などから理解し、利用者さんの希望に添えるように努力している。ゆっくりと話を聞く環境を作るよう努めている。	新しい環境に慣れて頂けるように、利用者さんからお話を伺い、入居に至るまでの生活を面談記録などから理解し、利用者さんの希望に添えるように努力している。ゆっくりと話を聞く環境を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から直接お話を伺い、今何にお困りなのか、直面しているのかを聞かせて頂いている。またわがやの生活をする中で要望も伺い、その都度連絡をとりながら関係作りをしている。	ご家族から直接お話を伺い、今何にお困りなのか、直面しているのかを聞かせて頂いている。またわがやの生活をする中で要望も伺い、その都度連絡をとりながら関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みから面談、見学受け入れなど、またケアマネからの情報も得ながら、入居に至るまで入居者さんやご家族の状況を伺いながら、アセスメントを行い必要時間関係機関と連携をとり、支援させて頂いている。	申し込みから面談、見学受け入れなど、またケアマネからの情報も得ながら、入居に至るまで入居者さんやご家族の状況を伺いながら、アセスメントを行い必要時間関係機関と連携をとり、支援させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居に至るに当たり、生活暦を聞かせて頂いたり、生活する中でまた面会時、ご家族からお話を伺い、入居者さんの得意分野を教えてください、感謝や労いの言葉を伝え、一緒に時間を共有し、関係づくりをしている。	入居に至るに当たり、生活暦を聞かせて頂いたり、生活する中でまた面会時、ご家族からお話を伺い、入居者さんの得意分野を教えてください、感謝や労いの言葉を伝え、一緒に時間を共有し、関係づくりをしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名)	ユニット名(① 6名)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はもちろん、生活の中で気づいたことはご家族に伝え、状況をお話します。そこからご家族や入居者さんも交え、考えて支援につなげています。ご家族も同様の支援が出来るよう説明し、家族の理解も得ながら関係性を作っている。	面会時はもちろん、生活の中で気づいたことはご家族に伝え、状況をお話します。そこからご家族や入居者さんも交え、考えて支援につなげています。ご家族も同様の支援が出来るよう説明し、家族の理解も得ながら関係性を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや昔からの馴染みの場所(初詣の神社)に行ったり、近所を通ったりし、思い出せるようなきっかけづくりに努めたり、なじみの人への面会を働きかけている。	お墓参りや昔からの馴染みの場所(初詣の神社)に行ったり、近所を通ったりし、思い出せるようなきっかけづくりに努めたり、なじみの人への面会を働きかけている。	馴染みの神社への初詣やお墓参り、お世話になった民生委員さんから年賀状が届いている。また、ひとり暮らしの利用者で家に帰りたいと自宅と一緒に見に行ったり、家族のつながりを大切にしている利用者もいて、人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん全員で話し合う時間や、気の合う利用者同士で話ができる機会を作っている。入居者さんの生活歴や、家族構成を理解し、きっかけ作り等職員が橋渡しをしたり、間に入り、支えあうような働きかけを行っている。	入居者さん全員で話し合う時間や、気の合う利用者同士で話ができる機会を作っている。入居者さんの生活歴や、家族構成を理解し、きっかけ作り等職員が橋渡しをしたり、間に入り、支えあうような働きかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り支援をさせて頂いた方は、度々来て下さりお話をする機会もあり、必要があれば相談ことも伺っている。契約が終了しても遊びに来られたり、体調のこと、支援サービス等の相談にのっている。	看取り支援をさせて頂いた方は、度々来て下さりお話をする機会もあり、必要があれば相談ことも伺っている。契約が終了しても遊びに来られたり、体調のこと、支援サービス等の相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で要望やその時の気持ちを伺い、支援につなげている。またアセスメントや毎月のモニタリング、日々の記録や何気ない言葉、行動を理解し、入居者さん本位になるように支援している。家族の意向も確認し対応している。	日々の関わりの中で要望やその時の気持ちを伺い、支援につなげている。またアセスメントや毎月のモニタリング、日々の記録や何気ない言葉、行動を理解し、入居者さん本位になるように支援している。家族の意向も確認し対応している。	利用者の一人ひとりの思いや希望、意向等は、日々の関わりの中で声を掛け把握している。聞いたことは、日々の記録や申し送りノートに書いて職員間で共有している。居室にいる時は、ゆったりとした気分になり思いや意向を聞くことができる。意志疎通が困難な利用者に対しては、表情やしぐさから汲み取り、発した言葉等わからない時は家族に聞いて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集させていただいたが、日々生活する中で入居時に知りえなかった事、発見につながる事など職員間で情報を共有し把握に努めている。	入居前に情報収集させていただいたが、日々生活する中で入居時に知りえなかった事、発見につながる事など職員間で情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の記録や、健康管理表の確認と、その日の表情などから状態を把握している。また、毎日朝夕で申し送りをし、確認もしている。	日常生活の記録や、健康管理表の確認と、その日の表情などから状態を把握している。また、毎日朝夕で申し送りをし、確認もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活、記録の中からケアプランを作成し、入居者さんの言葉(思い)を汲み取り、ご家族の思いや気持ちも取り入れ優先順位を検討し計画を立てている。また、職場会議でモニタリングを行い現状に即した介護計画を立てている。	日々の生活、記録の中からケアプランを作成し、入居者さんの言葉(思い)を汲み取り、ご家族の思いや気持ちも取り入れ優先順位を検討し計画を立てている。また、職場会議でモニタリングを行い現状に即した介護計画を立てている。	入居時に利用者、家族の意向を聞いて暫定の介護計画を作成し1か月で見直している。職場会議で利用者毎のアセスメントを含め意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い介護計画を作成している。3か月で見直し、変化がなければ6か月としている。家族の要望や変化が生じた場合には、モニタリングに基づいて関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や、入居者さんの言動を記録に残し、関わりポイントを確認したり、ミニカンファをして共有している。また、朝夕の申し送りで共有しながら介護の必要性や見直しを行い支援している。	日々の変化や、入居者さんの言動を記録に残し、関わりポイントを確認したり、ミニカンファをして共有している。また、朝夕の申し送りで共有しながら介護の必要性や見直しを行い支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名)	ユニット名(① 6名)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関の医師や主治医、看護師、リハビリ、福祉用具、マッサージ導入など入居者さんにとり何が必要かを家族も含め、考え支援している。食べられるように、食事形態、補助食品など栄養士と相談している。	協力医療機関の医師や主治医、看護師、リハビリ、福祉用具、マッサージ導入など入居者さんにとり何が必要かを家族も含め、考え支援している。食べられるように、食事形態、補助食品など栄養士と相談している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に作品を出品、参加し地域と交流を図っている。また季節行事では地域の物品をお借りして、地域の方も招き楽しむ事が出来るよう支援している。	地域の文化祭に作品を出品、参加し地域と交流を図っている。また季節行事では地域の物品をお借りして、地域の方も招き楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の変更時には家族と相談し納得を得ている。受診、往診時は最近の様子を文書にして状況を伝えるようにしている。必要な時は電話で指示をもらうことや、受診同行もしている。入居者や家族の状況に応じて対応できる情報を収集している。	かかりつけ医の変更時には家族と相談し納得を得ている。受診、往診時は最近の様子を文書にして状況を伝えるようにしている。必要な時は電話で指示をもらうことや、受診同行もしている。入居者や家族の状況に応じて対応できる情報を収集している。	入居前からのかかりつけ医と協力医の訪問診療を利用者、家族等が希望するかかりつけ医として定期受診している。かかりつけ医は家族同行として受診時に普段の様子や変化を文書にして伝えるようにしている。訪問診療は月1回で、受診日に同席する家族もいる。受信結果は家族等と情報を共有している。必要に応じて、訪問歯科、皮膚科の対応もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で「いつもと違う」ことは報告し早期発見、早期受診を行うようにしている。何事も早めの報告を心がけ、判断を仰いでいる。内服薬も看護師の指導の下で管理している。	日々の関わりの中で「いつもと違う」ことは報告し早期発見、早期受診を行うようにしている。何事も早めの報告を心がけ、判断を仰いでいる。内服薬も看護師の指導の下で管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはわがやでの生活状況を報告している。病状確認、治療内容の確認をこまめに行い、ご家族と連絡をとりあっている。、早期退院に向けた話し合いを持つ関係性を作っている。カンファレンスは必ず開催している。	入院時にはわがやでの生活状況を報告している。病状確認、治療内容の確認をこまめに行い、ご家族と連絡をとりあっている。、早期退院に向けた話し合いを持つ関係性を作っている。カンファレンスは必ず開催している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時看取りの指針説明や更新時に入居者さんやご家族の気持ちを確認して。状況をその都度確認しながら話し合いの中で方針を決めている。かかりつけ医の往診も欠かせないことなのでかかりつけ医との連携も大切にしている。また、法人内の訪問看護とも相談が出来る体制を取っている。	入居時看取りの指針説明や更新時に入居者さんやご家族の気持ちを確認して。状況をその都度確認しながら話し合いの中で方針を決めている。かかりつけ医の往診も欠かせないことなのでかかりつけ医との連携も大切にしている。また、法人内の訪問看護とも相談が出来る体制を取っている。	入居時に看取りに関する指針の説明をして同意を得ている。介護認定更新時に話し合いの機会をつくり、病院での看取りか事業所での看取りかについて確認しながら方針を決めている。利用者、家族の納得が得られるように状況の変化のたびに話し合いを繰り返し、事業所での対応としては医師、看護師、職員で医療連携体制を整え支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の生活の中で体調の変化に応じた、マニュアルを作成している。AEDを設置し、学習会にも取り組み、いざと言うとき実行できるよう努めている。	日々の生活の中で体調の変化に応じた、マニュアルを作成している。AEDを設置し、学習会にも取り組み、いざと言うとき実行できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定した訓練を行っている。避難では、シーツで包む等工夫している。地域の消防団や自治会長、民生委員といった協力体制が得られ連絡網訓練を行っている。運営推進会議でも地域の方に防災訓練の講評をしていただいている。	各災害を想定した訓練を行っている。避難では、シーツで包む等工夫している。地域の消防団や自治会長、民生委員といった協力体制が得られ連絡網訓練を行っている。運営推進会議でも地域の方に防災訓練の講評をしていただいている。	火災、地震を想定した避難誘導訓練を年2回、日中と夜間を想定して利用者、職員とで実施している。訓練には、防火設備の担当者も立ち会っている。また、水害を想定して警戒レベル3以上で上の階に避難する訓練を利用者と一緒に行った。今回はコロナ禍で訓練に地域住民の参加が得られなかったが、災害時の協力体制は築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として入居者さんの人格や気持ち、性格を配慮し一人ひとりを尊重した対応を心掛けている。また、理念にもある恥を欠かせないケアについて定期的に学習会を行い意識している。	人生の大先輩として入居者さんの人格や気持ち、性格を配慮し一人ひとりを尊重した対応を心掛けている。また、理念にもある恥を欠かせないケアについて定期的に学習会を行い意識している。	利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、学習会で確認しながら取り組んでいる。トイレ等誘導の際にも、さりげないことばかけに配慮している。利用者の呼称は、苗字として家族に確認して対応している。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームわがや	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(② 9名)	ユニット名(① 6名)	実践状況
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個別に、入居者さんの希望要望を伺ったり、汲み取ったりする時間をつくり働きかけている。また、生活の中で何気なく話した気持ち、思いをくみ取るようにしている。	日常生活の中で個別に、入居者さんの希望要望を伺ったり、汲み取ったりする時間をつくり働きかけている。また、生活の中で何気なく話した気持ち、思いをくみ取るようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日体調や天気、思いや希望を確認し支援している起きる時間、食事の時間も一人ひとりのペースに合わせている。自分で判断することが難しい方にはその方の様子をアセスメントし適した支援を行えるように心掛けている。	その日体調や天気、思いや希望を確認し支援している起きる時間、食事の時間も一人ひとりのペースに合わせている。自分で判断することが難しい方にはその方の様子をアセスメントし適した支援を行えるように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行ったり、長髪の方は髪結い支援や、男性は髭そりが毎日出来るように支援している。洋服もできるだけ自分で選択できるようにお手伝いしたり、朝、入浴後など整容、外出時のお化粧等支援している。	美容院に行ったり、長髪の方は髪結い支援や、男性は髭そりが毎日出来るように支援している。洋服もできるだけ自分で選択できるようにお手伝いしたり、朝、入浴後など整容、外出時のお化粧等支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や誕生日に合わせて好みを伺い、食事が楽しみとなるよう支援している。入居者さんの出来る事を見極め、野菜切りやお米とぎ、テーブル拭きやお茶いれ、下膳も出来る時に食器をまとめたり、下げたり、洗い、拭き等全般に行っていたいっている。	季節や誕生日に合わせて好みを伺い、食事が楽しみとなるよう支援している。入居者さんの出来る事を見極め、野菜切りやお米とぎ、テーブル拭きやお茶いれ、下膳も出来る時に食器をまとめたり、下げたり、洗い、拭き等全般に行っていたいっている。	ご飯、汁物は事業所で用意し、朝、昼、晩は業者から調理された副菜が届けられ、温める等手を加えて盛り付けている。昼を担当する調理専門の職員が作る日もあり利用者也出来る事は一緒に行っている。利用者の誕生日や手作りおやつは、希望を取り入れたメニューにして食事が楽しみになっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の様子や健康チェック表を把握し記録に残し、水分はこまめに、飲みたいもの、飲める物を提供したり、食事の内容、形態を工夫したりしている。また、栄養士や看護師と相談し食べられるよう支援している。	日々の様子や健康チェック表を把握し記録に残し、水分はこまめに、飲みたいもの、飲める物を提供したり、食事の内容、形態を工夫したりしている。また、栄養士や看護師と相談し食べられるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来るところは入居者さんが行い、出来ないところや、磨き残しはお手伝いしている。夜間義歯は預かり管理している。自分の歯で食事が取れるように歯科往診につなげ、支援している。	毎食後口腔ケアを行い、出来るところは入居者さんが行い、出来ないところや、磨き残しはお手伝いしている。夜間義歯は預かり管理している。自分の歯で食事が取れるように歯科往診につなげ、支援している。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し時間を確認する中で分析、トイレで排泄出来るように支援につなげている。また、立位が難しい方は、二人介助を行っている。日中はできるだけ綿パンツで過ごして頂いている。個別の排泄行為の手順書を職員全員で作成し支援をおこなっている。	排泄表を利用し時間を確認する中で分析、トイレで排泄出来るように支援につなげている。また、立位が難しい方は、二人介助を行っている。日中はできるだけ綿パンツで過ごして頂いている。個別の排泄行為の手順書を職員全員で作成し支援をおこなっている。	排泄チェック表を使用し、パターンを把握してトイレで排泄できるよう支援している。夜間はオムツやポータブルトイレを使用している利用者もいる。日中は小さめのパットを使用し綿パンツに近い感覚で過ごすようにして日中と夜間でパットの大きさを替えている。トイレの一連の動作を見極めて、できる行為の確認を取りながら一人ひとりの対応を職員間で共有している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や起床時の冷水、牛乳や乳製品、センナ茶など、排便が促せるようにしている。トイレに足台を置き力を入れやすいようにしている。座位を保つことの大切さや体を動かし、自然排便ができるように支援している。	繊維質の多い食品や起床時の冷水、牛乳や乳製品、センナ茶など、排便が促せるようにしている。トイレに足台を置き力を入れやすいようにしている。座位を保つことの大切さや体を動かし、自然排便ができるように支援している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望時間に添えるよう対応している。個浴で好みの湯加減でゆっくり入っていただき、職員と話す機会ともなり、楽しまれている。	本人の希望時間に添えるよう対応している。個浴で好みの湯加減でゆっくり入っていただき、職員と話す機会ともなり、楽しまれている。	毎日、午後から入浴できるよう準備をしている。基本的には3日置きとしているが、その日の希望を聞いて利用者に添った入浴支援をしている。夕食に近い時間や同性介助を希望する利用者には配慮した対応をしている。入浴を拒む利用者には、声掛けの工夫や職員を替えて入浴を試みている。

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名)	ユニット名(① 6名)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんの生活習慣やその日の体調に合わせた支援をしている。リネン、寝具の洗濯や布団干しを行い気持ちよく休んで頂けるように支援している。	入居者さんの生活習慣やその日の体調に合わせた支援をしている。リネン、寝具の洗濯や布団干しを行い気持ちよく休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さん個々の薬局から出される説明書は必ず読み内容を理解するようにしている。薬セットから、日付確認など必ず2人体制で行い、飲みこむまで確認している。薬が増えたときは、副作用がないか様子を観察し変化あるときは主治医に情報提供している。	入居者さん個々の薬局から出される説明書は必ず読み内容を理解するようにしている。薬セットから、日付確認など必ず2人体制で行い、飲みこむまで確認している。薬が増えたときは、副作用がないか様子を観察し変化あるときは主治医に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調に合わせて、一人ひとりの出来る事を支援している。外出や食事づくり、趣味、歌、体操などを含めた支援を行っている。	その日の体調に合わせて、一人ひとりの出来る事を支援している。外出や食事づくり、趣味、歌、体操などを含めた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の関わりの中で意見や要望を聞く機会を作ること、何気なく発した会話から日常的な外出支援に努めている。また、買い物や散歩、回覧版まわし、地域新聞配りと一緒にしている。その他にも、季節に合わせて外出企画を立て、戸外に出かけられるよう支援している。	日々の関わりの中で意見や要望を聞く機会を作ること、何気なく発した会話から日常的な外出支援に努めている。また、買い物や散歩、回覧版まわし、地域新聞配りと一緒にしている。その他にも、季節に合わせて外出企画を立て、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的には庭に出て職員と一緒に洗濯物を干したり、畑を見に行くなど短時間でも戸外に出る機会があり、気分転換にもなっている。また、職員と一緒に回覧板を持って行ったり、事業所だよりを配るなど事業所周辺にも出掛けている。コロナ禍で季節を感じられる場所への外出は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の預かりをしていない。しかし、お小遣いとして、財布を持っている方には買い物支援として繋げている。	基本的には金銭の預かりをしていない。しかし、お小遣いとして、財布を持っている方には買い物支援として繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど大切な人に入居者さん自身が書き送り、返事も楽しみのひとつになっている。ご家族様からの手紙も本人様と一緒に読まれている。	年賀状や暑中見舞いなど大切な人に入居者さん自身が書き送り、返事も楽しみのひとつになっている。ご家族様からの手紙も本人様と一緒に読まれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような空間作りを努めている。入居者さんが思い思いに過ごせるようユニットの行き来の制限はしていない。換気や室温、乾燥には十分注意を払っている。声や足音には配慮し、入居者さんに分かりやすい言葉で表示し、心地よく過ごせるように支援している。	季節感を感じられるような空間作りを努めている。入居者さんが思い思いに過ごせるようユニットの行き来の制限はしていない。換気や室温、乾燥には十分注意を払っている。声や足音には配慮し、入居者さんに分かりやすい言葉で表示し、心地よく過ごせるように支援している。	3階のエレベーターを降りたところが事業所で2ユニットになっている。ユニット間の行き来は自由に出来、各所に椅子やソファが置かれ利用者同士の会話やくつろぎの場所になっている。共用空間には生活感、季節感のあるものを飾るように配慮して、居心地のよい空間づくりに努めている。コロナ感染対策として、マスクの着用、定期的な換気、加湿器、サーキュレーター、次亜塩素酸ナトリウム液での消毒等に心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席はあるが、その日の入居者さんの気分がソファに座ったり、ユニットを自由に歩きまわして、行きたい所など、入居者さん自身が過ごしたいように支援している。居室が離れたところにある方は途中で一休み出来るようにイスを置いてある。	決まった席はあるが、その日の入居者さんの気分がソファに座ったり、ユニットを自由に歩きまわして、行きたい所など、入居者さん自身が過ごしたいように支援している。居室が離れたところにある方は途中で一休み出来るようにイスを置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ使い慣れた家具や寝具、小物などを持ってきて頂き、入居者さん自身が安心して生活できるように、また、身体の状態に合わせた居室作りを、ご家族と考え工夫している。	入居時にできるだけ使い慣れた家具や寝具、小物などを持ってきて頂き、入居者さん自身が安心して生活できるように、また、身体の状態に合わせた居室作りを、ご家族と考え工夫している。	居室にはカーテン、照明器具、時計、エアコン、押し入れが備えてある。テレビ、整理ダンス、ぬいぐるみ、写真、趣味のちぎり絵等馴染みの物を持ち込み、その人らしい部屋作りがされている。また、ペットの習慣のない利用者は、入居前と同じように布団を敷いて就寝する生活をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下など手すりがつけてあり、浴室も出入浴がご自身で出来るようになっている一人ひとりの生活動作にあわせ、すべり止めや、予防の為のセンサーマットを利用し安全に配慮している。	トイレや浴室、廊下など手すりがつけてあり、浴室も出入浴がご自身で出来るようになっている一人ひとりの生活動作にあわせ、すべり止めや、予防の為のセンサーマットを利用し安全に配慮している。		